1 景観学習プログラムのねらい

1-1. 私たちの暮らしと景観

私たちが暮らす北海道には、積雪寒冷の気候風土や雄大な自然が生活や産業の営みとかかわり合って、その地域ごとに多様で魅力的な景観がつくり出されています。このような景観は、道民にとってかけがえのない財産となっています。

私たちの住む土地の気候や風土を含め、豊かさを実感でき、まちの環境を考える重要なとらえ方として「景観」があります。

◇　◇　◇

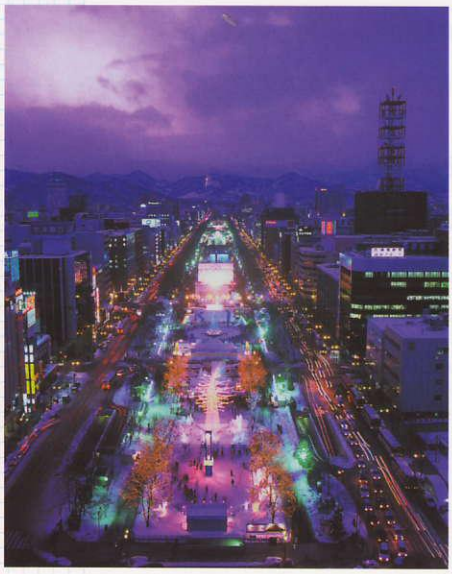
景観づくりを通して魅力ある地域社会の実現に寄与することを目的に、北海道は平成13年に「北海道美しい景観のくにづくり条例」を制定しています。

また国においては、量的充足を追求してきた社会資本整備のあり方を省みて、魅力のある国の実現に向け平成15年7月に「美しい国づくり政策大綱」を定め、平成16年6月には景観法を公布するなど、「景観」についての様々な取組を進めています。

■景観とは…

景観とは、長い時間の中で生活や産業といった営みが周りの自然や風景に重なり合い、私たちの目に映し出される光景を言います。それは、地域の歴史を物語り、文化の積み重ねを通じて人々の暮らしを反映し、環境と地域社会とのかかわりの度合いを客観的に把握できるものです。

※景観について、詳しくはp5、6を参照してください。



1-2. 景観学習とは

美しく魅力ある景観は、地域の気候・風土、歴史・文化などの地域らしさを基盤とし、人々の暮らしと産業の営みによって築かれたものです。

景観づくりは、私たち道民一人一人が担い手となって取り組むことが大切であり、豊かな自然環境や地域固有の歴史や文化を受け継ぎ、よりよい環境を将来の世代へ引き継ぐことにもつながります。その第一歩として私たちの身の回りの景観を考えてみることが大切です。

特に、子どものころから自分のまちの景観を実際に観察し、様々な問題点に気づいたり、美しい景観を体験したりすることは、景観をよりよくする方法や意識を学ぶことにつながります。暮らしのマナーとしてまちづくりや景観づくりに取り組もうとする心が子どものころからはぐくまれていくような文化の育成が、現代の社会に求められていると考えます。

景観学習とは、子どもたちが自らの目で地域の財産である景観を見つけ、その成り立ちや暮らしとのかかわり、人々の思いや努力について探究することにより、地域に対する誇りや愛着をはぐくみ、自らもどうかかわるかを考えていく学習です。

景観学習は、私たちの目に映る環境そのものを扱うので、子どもたちがテーマを見つけやすく、主体的に取り組めるのが特徴です。また、身近な環境の大切さや、人々の営みとのかかわりを学んでいくので、地域を見つめるきっかけづくりに適しています。

景観学習を通して、地域に暮らす人々と交流したり、自然、歴史・文化とふれ合ったり、安全対策や防災の観点からまちを見直したりすることも可能であり、様々な分野と連携を図りながら学習を進めることができます。

1-3. 景観学習プログラムとは

この景観学習プログラムは、道内各地で、学校や地域が主体となって景観学習を実践する際の参考資料として作成しました。

プログラムは、小学校高学年の「総合的な学習の時間」で活用されることを想定しています。

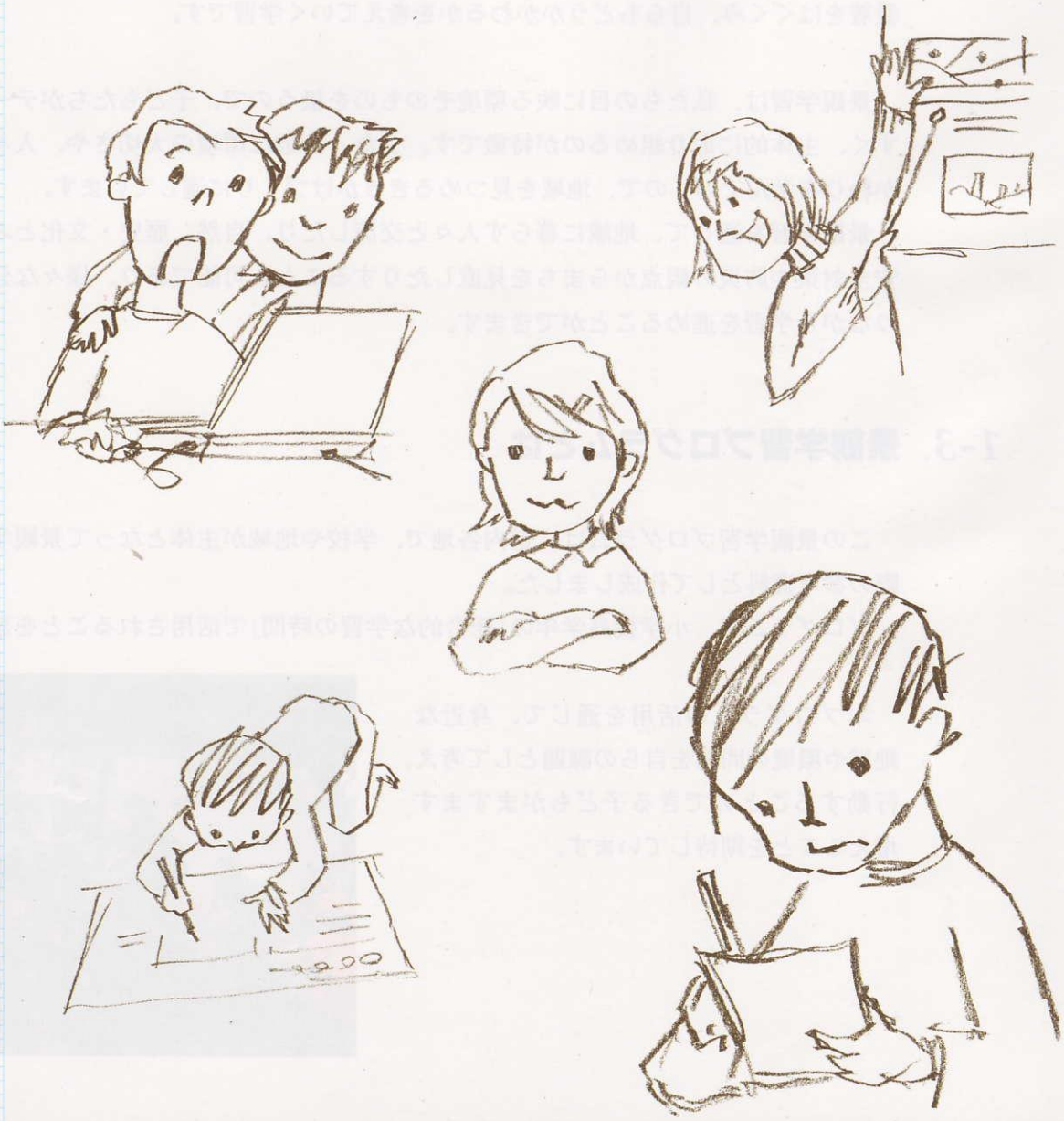
本プログラムの活用を通じて、身近な地域や環境の問題を自らの課題として考え、行動することのできる子どもがますます増えることを期待しています。

1-4. 景観学習プログラムのねらい

景観学習プログラムでは、子どもたちの主体的な取組、自らの発見、気づきを通じて、次のようなことが達成されることをねらいとしています。

①身の回りの景観や生活環境について興味や関心をもてる

②景観は私たちの暮らしや人々の営みのあり様と深く結びついていることを理解できる

③地域の景観をみんなの共有の財産として大切にできる

④景観づくりの担い手として自ら考え、行動できる